

議会報告・活動報告

筑西市議会議員

みさわ 隆一

皆さまには日頃より大変お世話になっております。市民の皆さまからいただく貴重な声が、定例会の一般質問や議員活動において私の大きな力になっています。「市民 プラス 行政 プラス 議会」が一つになり、地域における数々の課題解決に向け「批判」より「提案」をモットーに「行動」に移してまいります！

筑西！
愛してます！

Vol.12

県西フードパントリー 8月配布会を開催いたしました！

食料品はじめ全ての品物の物価高騰が続く、今やこれまでの普通の生活を続けることが大変な状況です。一方でまだ食べられるのに廃棄されてしまう食材が多いなどのフードロス問題も起きています。我々「県西フードパントリー」ではこれらの矛盾を何とか解消すべく、多くの皆さまからご支援が届いた食材や雑貨・衣類さらには市内外のフードドライブ活動で集まった品物を一括管理し、賞味期限に注意しながら、年3回の配布会や生活が大変な世帯などにお渡ししています。5年目を迎え、今後も筑西市、社会福祉協議会はじめ、増加している連携団体の皆さまと共に支援体制を拡充してまいります。



列島クリーンキャンペーン&フードドライブ開催！

筑西市で働く仲間の連合茨城下館地区協議会の皆さんと共に、市の玄関口ともいえる旧市役所跡地と五行川周辺の清掃活動を行いました。同時開催のフードドライブでお預かりした食材は、県西フードパントリーを通してひとり親や高齢者世帯など必要とする方々へ確実にお届けさせていただきます。



筑西市でまじめに働く皆さんが報われる社会へ！

連合茨城中央地区協議会では、様々な業種の皆さんが安心して仕事に専念できるように、日常生活で感じる不安や不便の解消に向け取り組んでいる現状をお話させていただきました。また正規・非正規・パートを問わず、仕事上の悩みなど随時相談できる労働相談窓口を設け、まじめに働く皆さんが報われる社会の実現を目指します。



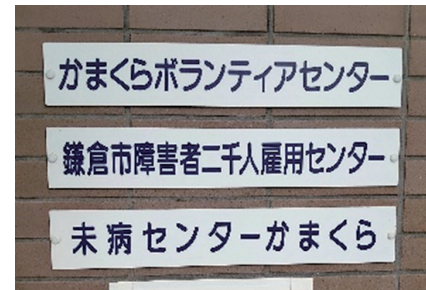
子ども見守りボランティア活動 命をかけて命を守る！

PTA・学校・自治会・安全協会・防犯協会・交通安全母の会・女性会他の皆さま方と連携し、小中高生の子どもの安全のために毎日見守りを続けています。子どもは地域の未来そのものです。子ども達から送られた「感謝の言葉」を胸に、活動13年目、被害者も加害者も出さないために今後も活動を継続してまいります！



行政視察研修 福祉文教委員会 「障害者二千人雇用事業について」(鎌倉市)

鎌倉市では「誰もがチャレンジできる障害者雇用の推進」として障害者雇用(身体・知的・精神)2,000人を目指し、市が先導して市内企業訪問や企業向けの講演会、採用企業への障害者雇用奨励金を支給するなど雇用推進に取り組んでおり、ICTなど最先端技術も活用することで、令和7年7月には2,288人の就労が実現しています。自ら望む形で就労し、生涯にわたって安心して暮らせることは理想的であります。多様性を認めあえる社会の実現に向けて先進事例をもとに私も研究したいテーマです。



行政視察研修 福祉文教委員会 「小田原市立病院の経常収支の黒字維持について」(小田原市)

ほんの10年前まで医業利益がマイナス10億円まで落ち込んでいた状態から、経営改革プランとして病院の現状分析にコンサルタントを導入し、外部人材の視点での教育体制の整備により病院全体の意識改革につなげ2022年度には医業収支が黒字に転じた。地域連携を重点に置き、地域診療所への訪問から紹介・逆紹介のプロセスも改善。さらには院長と多職種による経営の進捗を徹底管理。全国の8割の公立病院が赤字の中、筑西市においても非常に参考になる経営改革プランでした。



これからの「将来へのビジョン」そして「未来への挑戦」

私の重要テーマの一つであります「ご高齢者の生活を今後どうサポートしていくか」について考えます！高齢化率が34%に迫り、免許返納される高齢者も増加。地域を歩けば必ず聞く「移動手段が無い。何とかして！」との声。筑西市が超高齢化社会となった今こそ、より安価で利便性が良く、いつでもだれでも利用できる交通システムを民間・行政・自治会などが連携しながら創り上げる必要があります。

1. 「生活の足」だけでなく今や「生きるための足」地域交通を守る！

世帯当たりの乗用車普及台数で日本一になったこともある筑西市。それだけ可住地面積が広く車が無くては生活できない地域であり早急な対策が必要です！タクシー・公共バス・デマンドタクシーにプラスして、支線バスとしてミニワゴン車(10人乗り以下)が細かなエリア分けをした地域内を短時間に何度も循環し、様々な拠点をつなぐという考え方です！



2. 地域内で完結する「小さなコミュニティづくり」という考え方！

高齢化社会は成熟した社会です。今こそ、支線バスであるミニワゴン車などを活用することで、地域内にもともとあった小さなコミュニティを見直し、それぞれの地域内商店での買い物や医療機関・各種専門店などにより日常の生活が完結し、同時に昔ながらの助け合いの精神にもつながるような新たな「ちくせいスタイル」の街づくりの考え方があっていいと思います。

3. 健康寿命を延ばす！「運動・食・人とのつながり」も今後、必要なテーマです！

自由に移動できることで毎日の生活が変わります。運動や人との関わりを持つ機会は市内にも数多くあり、市の健康体操教室や民間・公共のスポーツ施設などを利用し運動することは筋肉維持、貯筋につながります。

また筑西市は日本有数の野菜の産地であり、新鮮な野菜がいつでも手に入ります。野菜を中心に肉・魚などタンパク質の摂取で体の中から健康に！

ご高齢者の孤立は心身に有害な影響を及ぼします。地域交通で自由に移動し、人々と交流ができることは心身の健康維持には欠かせません。



交通弱者の皆さまが自由に使える「生活の足」地域交通の確保は、ご本人もご家族の負担をも軽減できます。「批判」より「提案」、そして「実現」に向け、市民全体で協力し創り上げましょう！

議会報告 一般質問

市民の皆さまからのご意見・ご提案をもとにテーマ決め、各定例議会議場にて一般質問として発言しております。また皆さまからいただいた貴重なお時間のおかげで約10年間、一度も休まず質問を続けることができましたことに心より感謝申し上げます。



※QRコードを読み込んでいただくと、一般質問の動画を見ることができます。

災害時に備え市内公立学校体育館に空調設置を！ 令和7年 第2回定例会

三澤	今年も苛酷な夏が予測されるが、熱中症対策としてクーリングシェルトーの設置期間及び設置場所は。
教育部長	運用期間は4月23日から10月22日まで、市の施設9か所、県の施設2か所、民間の施設24か所、計35か所に設置している。
三澤	災害時に備え指定避難所である市内公立学校体育館のうち、中学校区に一か所くらいは空調設置が必用である。空調設備臨時特例交付金を活用する考えは。
市長	有利な支援制度ではあるが、財源確保も含め慎重に検討は必要である。避難所に指定されていることから前向きに検討を進めたい。

みさわの視点

体育館は子ども達の学習の場であり災害時の避難所でもある。空調設備整備臨時特例交付金などを活用し、子ども達や高齢者の命をまず最優先に考え早急な空調整備が必要です。また近年の激甚化、頻発化している自然災害により停電なども予測される。他自治体(水戸市では48校すべてに導入決定)で導入が進む停電時でも動くガスでエンジンを同時に電源として活用もできるガスヒートポンプタイプの導入も有効と考えられます。

【その他の質問】 学校におけるフッ化物洗口

第2回定例会 質問 ▶



夏休み明けの子ども達のSOSをどのように把握しているか？ 令和7年 第3回定例会

三澤	9月1日は一年の中で子ども達の自殺者数が出出して多いという残念な結果が出ている。夏休み明けの子ども達の健康状態も含めSOSをどのように把握しているのか？
教育長	全教職員で子供たち一人一人の様子を注視している。相談室や保健室、さらに中学校においては校内フリースクール等々で、子供たちの変調に素早く対応できるよう校内の支援体制を整えている。
三澤	子ども達の小さな変化にいち早く気づくのは、やはり周りにいる子ども達。いじめを見つけた時や悩んでいる様子に気づいたとき、SNS等で変な書き込みを見た時など、子ども自身がゲートキーパーとして行動するための指導、提案はおこなわれているか？
教育長	子ども達には、まずは周囲の大人に相談し、その内容をできるだけ詳細に記録すること、さらにその子に対し、そばにいてあげたり、話を聞いてあげたりしてほしいなど、日々のあらゆる機会を通して子供たちに指導している。

みさわの視点

私は子ども自身が、いじめやSOSに気づいた時にどう対応するべきかの手順をしっかりと学ぶことによって、教職員が多忙で子ども達に寄り添う時間が取れない時でも、いち早く異変に気づくことで友達を救うことができるのではないと思う。そして万が一自分が同じ立場になったときに自分が学んだ対処法にそって行動に移すことが長きにわたり自分を守ることになることを願っています。(いじめ認知件数や不登校の児童・生徒数は過去最多。)

第3回定例会 質問 ▶



教育現場の勤務実態を踏まえた業務改善策を！

三澤	日々業務に追われ、いまだに多い時間外勤務や休憩さえ取れない教育現場の現状。これらを踏まえた業務支援員やサポートスタッフの採用状況はどのようになっているか。
教育長	小学校では、生活指導員をはじめ日本語指導支援員、学校図書館司書等87名を採用しております。中学校では、部活動指導員、心の教育相談員、学校問題解決支援員の15名を採用しております。
みさわの視点	業務改善、人員配置も少しずつ進んではいますが、削減できる業務があっても大幅な業務の削減や改善は学校単位での判断は難しく、教育現場のコーディネーターとして、教育長が各校に「この事業は必要。しかしこれは部分は改善する」などトップダウンで進めてもらうことも時には必要です。教職員が「時間的」「精神的」にもゆとりが無く、業務に追われ子ども達と向き合う時間がとれないことが、どれだけ子どもの心身の健全な成長に大きな影響を及ぼすかを全国的に検証すべきだと思います。(小中高生の自殺者数は令和6年529人となり統計のある1980年以降で最多。小中学校の不登校児童生徒数は約35万3970人で過去最多。12年連続で増加。)

災害関連死を減らす取組について

三澤	災害関連死を減らす取組として、避難所運営で本市が特に重要視している点は？
市民環境部長	保健師の指定避難所への派遣や巡回を行い、体調不良者の早期発見に努めるとともに、災害関連死を減らすため、指定避難所の質の向上が重要な要素であると認識している。
三澤	避難所運営で大切なのは「TKB」(トイレ、キッチン、ベッド)だと言われる。トイレの設置基準、また、1人当たりの居住面積基準は満たしているか？
市民環境部長	国際基準である「スフィア基準」に沿い、トイレは災害発生後の初期段階で避難者50人に1基、中期段階で20人に1基、女性用と男性用の割合が3対1とするようされている。引き続き民間事業者との災害時応援協定に基づき手配してまいりたい。また居住スペースは災害の種類や規模等にもよるが、指定避難所を開設する際、プライベート等に配慮しつつ、3.5平方メートルの居住スペースを確保するよう努めてまいりたい。
三澤	指定避難所とされているのに体育館には空調が入っていない。災害時に避難する場合、例えば真夏や真冬など空調がない状況での対処法、また停電したときの対処法は？
市民環境部長	夏の暑さへの対処として、各校にスポットクーラー2台及び大型の扇風機4台を配備し、冬の寒さへの対処として、各学校及び小学校にジェットヒーター1台を配備している。停電への備えは、太陽光パネルで充電できる蓄電池や発電機を配備。災害の規模や時期、指定避難所の開設状況により不足も考えられる。災害時応援協定締結先から必要となる備品や機材等について手配してまいりたい。
三澤	真夏や真冬に避難した場合、現在の配備状況では耐えられない。また緊急時に停電時や避難所が足りない時やプライバシーの確保が望まれる場合などには車中泊避難が見直されている。また水害時には車だけでも早く高く安全なところへ移動させる場所も必要だと思うが対処法は。
部長	車中泊避難場所につきましては、現在1事業者ではございますが、協定を締結している。

みさわの視点

現在、日本各地で自然災害が激甚化、頻発化している。私はこれまで全国のような被災地を見てきましたが、やはり避難の遅れが甚大な被害につながっています。例えば水害の恐れのある時は市ハザードマップを基準に、1人1台の車両を保有する筑西市でありますので、避難を迷っている方は、スーパーの屋上や立体駐車場などへまずは早めに一度避難することが重要です。近年はゲリラ豪雨でも車両が水没しており、平常時から避難先として民間業者や土地所有者と災害協定を結び、緊急時にすぐに希望する市民が利用できるような準備が不可欠です。

【事務所】筑西市一本松 1234-1 TEL・FAX 0296 (25) 5838
E-mail misawa.338@docomo.ne.jp

【自 宅】筑西市玉戸 1336-317

各SNSで情報発信中！

Facebook



LINE



Instagram

